

3 「教職員の力」を伸ばす

【背景・目的】

社会の状況が大きく変わり、学校、家庭、地域の連携が進められる中で、教育に求められる役割も変化しています。子ども達の健やかな成長を支えていくために、管理職はもとより教職員は、日々、自己の成長のために研修を深め資質や能力を向上させていかなければなりません。保護者や地域住民から信頼される管理職となるには、自らの考えをしっかりと持ち、教職員の先頭に立って学校経営や教育活動に取り組んでいかなければなりません。さらに、子どもの成長に大きな影響を与える教職員は、人間的魅力を備え、自らの指導力を高め、学校経営の一翼を担っているという意識を持ち、活力ある教育実践に取り組むことが必要です。

本重点施策では、教職員が自らの力を伸ばし、本市の教育改革を第一線で推進していくための支援を行っていくことを目的とします。

【内容】

教職員が創意工夫を発揮し、能力や資質の向上を図るために、人事評価制度や採用方法を見直します。また、教職員の指導力等を高めるために研修プログラムを再編し、特に、「川崎版確かな学力」に関する研修内容を検討します。さらに、総合教育センターの機能強化や、NPOや関係機関との連携により、学習指導や生徒指導などに関する教職員への支援体制を強化します。

【イメージ図】

重点施策の内容が固まり次第作成

【展開する事業】

管理職・教職員の人事評価制度の見直し

教職員が、自ら能力を高めて、子どもたちにより効果的な指導を行い、保護者のニーズに柔軟に対応することなどにより、学校全体の教育活動の質的向上が促進されるよう、人事評価制度を見直します。

教職員の採用方法の改善

人間的魅力を備え、創意と活力に溢れた人材を採用できるように採用試験の方法を改善していきます。

ライフステージに沿った一貫性のある教職員研修プログラムへの再編

新たに生じる教育の実践的課題にこたえるように、総合教育センターで実施されている多くの研修を、教職員のライフステージに沿った計画的な研修として位置づけなおします。さらに、研修内容・研修成果の評価を実施し、研修プログラムの改善を図っていきます。

「川崎版確かな学力」に関する研修内容の検討

子どもたちに「川崎版確かな学力」を育成するための、適切な指導方法に関する検討を進め、研修プログラムに位置づけます。

総合教育センターの機能強化

川崎の教育の研究・研修機関として中心的な役割を担う総合教育センターの機能を一層充実します。学校教育への直接的な支援として、カリキュラムセンター機能の充実を図るとともに、教育相談や情報・視聴覚機能の充実を通して家庭や地域への支援を通して、側面からも学校を支援していくことに努めます。

各学校・各教職員の優れた教育実践の普及

各学校において、先進研究都市への視察や校内及び校外研修などで学んだ成果を自校の教職員に確実にフィードバックするために、校内での情報交換の場を設定し、教職員の資質や能力の向上に努める研修プログラムの構築と改善に努めます。また、教職員の自己研修の奨励に一層努めます。

【スケジュール】

事業名	達成目標	H17	H18	H19	H20～22	H23～26
管理職・教職員の人事評価制度の見直し		検討	実施		見直し	
教職員の採用方法の改善		ニーズ調査	実施		見直し	
ライフステージに沿った一貫性のある教職員研修プログラムへの再編		実施			見直し	

「川崎版確かな学力」 に関する研修内容の検 討			検討	実施		見直し
総合教育センターの 機能強化		実施			見直し	
各学校・各教職員の 優れた教育実践の普及		実施			見直し	

4 「学校」を地域拠点化する

【背景・目的】

学校は、子どもたちの教育を担う重要な教育機関であるとともに、市内全域に設置されている市民の財産です。学校を、子どもと大人が様々な活動を通してふれあう地域コミュニティの拠点としていくために、子どもだけでなく地域のあらゆる人々の学びや活動の場であるにとらえ、地域の人にとってより身近な施設にしていく必要があります。

また、多くの市民に安心して使用してもらえるように、より安全な学校施設が必要とされています。

本重点施策では、学校を地域コミュニティの拠点として整備し、子どもや市民にさまざまな学びや活動の場を提供することを目的としています。

【内容】

学校を地域の拠点化することをめざして、利用しやすく、安全で快適な学校施設の整備を計画的に進めていきます。また、生涯学習のひとつの拠点としての機能を強化するために、体育館・校庭などの開放、再転用可能教室・特別教室の整備など、学校施設の有効活用や、他の公共施設との合築・複合化を進めていきます。

【イメージ図】

重点施策の内容が固まり次第作成

【展開する事業】

計画的な学校施設の整備

地域と学校が共に利用できる、より安全で快適な教育環境を目指して、学校の適正規模・適正配置を踏まえた新築・改築・改修を行います。

校舎の耐震性の確保

児童生徒の安全性を確保するとともに、地域コミュニティの拠点や地域の防災拠点として、安心して学校施設を利用してもらうために、校舎の耐震補強を行います。

学校の適正規模・適正配置

児童生徒数の伸びに地域差があり、学校規模に地域間格差が広がってきているため、社会・地域の実情を考慮し、学校の適正規模・適正配置を推進し、子どもたちの良好な教育環境を確保していきます。

学校施設の有効活用の推進（再掲）

再転用可能教室・特別教室等の整備を行い、学校施設の中に市民のためのコミュニティスペースや、総合型地域スポーツクラブの活動拠点等を整備することで、市民の学びや活動の場に対するニーズに応えていきます。

他の公共施設等との合築・複合化の推進

図書館、保育園などの公共施設等と合築・複合化させることにより、子どもたちの活動の幅を広げ、夜間や休日にも活用できる施設として整備し、学校の地域拠点化を進めます。

【スケジュール】

事業名	達成目標	H17	H18	H19	H20～22	H23～26
計画的な学校施設の整備		検討		計画	実施	
校舎の耐震性の確保		実施				
学校の適正規模・適正配置		検討	計画	実施		
学校施設の有効活用の推進		実施				
他の公共施設等との合築・複合化の推進		実施				